

寛容な人間になるために

介護福祉学科教授 井上 善行 (2018.9.11)

看護・介護福祉職にとって「寛容である」ことが必要です。患者さん・利用者さんに対してだけでなく、職場の同僚や部下や上司、自分を支える知人・友人や家族に対しても同様ですし、共生社会という大きな課題を実現するのにも不可欠です。

「寛容」とは、広い心をもって他者の言動を受け入れ、過ちを厳しく咎め立てないことをいいます。寛容とは、自分の価値観として究極に「信じられない」「ありえない」ことではないかぎり、「許せない」「正すべき」という判断・審判をくださないことです。「どうでもいい」という放任でも「断れない」優柔不断でもなく、自分の責任で受けとめることです。



世の中は自分の思いとは違うこと、理不尽なことであふれています。相手を許せなければ、他者を傷つけたり争いになったりするし、自分自身を信じられなければ、自分のこころやからだを傷つけることになります。現実の多様性を受け入れることで、価値観が広がります。価値観が広がれば「それもあり」だと現実を受け入れられます。

価値観を広げるには、経験値が必要です。しかし、私たちの人生は有限です。人生 80 年のなかで、私たちが経験できることには限界があります。また、経験が増えても価値観が広くなるとはかぎりません。

経験が自分の価値観を広くするのは、自分がすべてを知ることが不可能だと気づき、世の中への畏怖の念が生じたときです。そのためには、読書が欠かせません。世の中には読み切れないほど膨大な本の海があり、自分の知らないことが本のなかに眠っています。本を読むことは、経験を「先取り」することを可能にします。しかも、いつでも、どこでも、時を超えて受け継ぐことが可能です。

本は単なる情報の記録ではなく、著者をはじめ多くの人の思いがぎっしり詰まった小宇宙です。本を読むことで、世界の端、宇宙の果てだって想像することができます。読書の体験は、裏切りません。読書は、偶然降りかかる現実の、わずかな経験しかできない自分の人生を大きく補完し、豊かにしてくれます。看護・介護福祉に直接関係ないような本も、学生時代にたくさん読んでおくことをおすすめします。

【寛容さを身につけるためにおすすめの本】

- ①千住英正, 千住ますみ(2010). 3日間命の輝き—天使になった娘がのこしたもの. スターツ出版.
- ②竹村亜希子, 都築佳つ良(2018). こどものための易経. 致知出版社.



*この度、井上先生から 2 冊ともご寄贈いただきました。どうぞご利用下さい。

(請求記号 ①916 : Se66 ②123.1 : Ta63)